

## 千葉市インターネットモニターアンケート調査結果

## 1. 調査概要

表 1 インターネットモニターアンケート調査概要

調査期間	平成 23 年 5 月 25 日午前 9 時～6 月 1 日午後 4 時
対象モニター	登録 2,413 人 (回答 1,064 人 回答率 : 44.1%)
設問数	7 問

男女別 (15歳以上)	登録者		回答者		
	人数	登録人数に対する割合	人数	登録人数に対する割合	回答人数に対する割合
男性	891 人	36.9%	465 人	52.2%	43.7%
女性	1,522 人	63.1%	599 人	39.4%	56.3%
計	2,413 人	100.0%	1,064 人	44.1%	100.0%

年代別	登録者		回答者		
	人数	登録人数に対する割合	人数	登録人数に対する割合	回答人数に対する割合
15～19才	18 人	0.7%	5 人	27.8%	0.5%
20～29才	242 人	10.0%	64 人	26.4%	6.0%
30～39才	974 人	40.4%	378 人	38.8%	35.5%
40～49才	600 人	24.9%	265 人	44.2%	24.9%
50～59才	220 人	9.1%	117 人	53.2%	11.0%
60才～	359 人	14.9%	235 人	65.5%	22.1%
計	2,413 人	100.0%	1,064 人	44.1%	100.0%

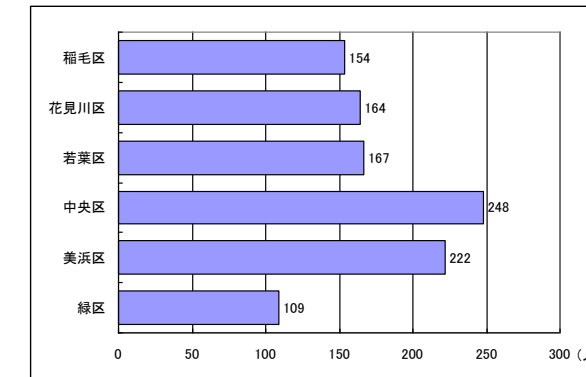
居住区別 (15歳以上)	登録者		回答者		
	人数	登録人数に対する割合	人数	登録人数に対する割合	回答人数に対する割合
中央区	568 人	23.5%	248 人	43.7%	23.3%
花見川区	402 人	16.7%	164 人	40.8%	15.4%
稲毛区	347 人	14.4%	154 人	44.4%	14.5%
若葉区	357 人	14.8%	167 人	46.8%	15.7%
緑区	272 人	11.3%	109 人	40.1%	10.2%
美浜区	467 人	19.4%	222 人	47.5%	20.9%
計	2,413 人	100.0%	1,064 人	44.1%	100.0%

職業別	登録者		回答者		
	人数	登録人数に対する割合	人数	登録人数に対する割合	回答人数に対する割合
農・林・漁業	1 人	0.0%	0 人	0.0%	0.0%
自営業	114 人	4.7%	58 人	50.9%	5.5%
会社員	773 人	32.0%	332 人	42.9%	31.2%
公務員	92 人	3.8%	35 人	38.0%	3.3%
団体職員	44 人	1.8%	21 人	47.7%	2.0%
主婦	1,056 人	43.8%	431 人	40.8%	40.5%
学生	58 人	2.4%	17 人	29.3%	1.6%
無職	275 人	11.4%	170 人	61.8%	16.0%
計	2,413 人	100.0%	1,064 人	44.1%	100.0%

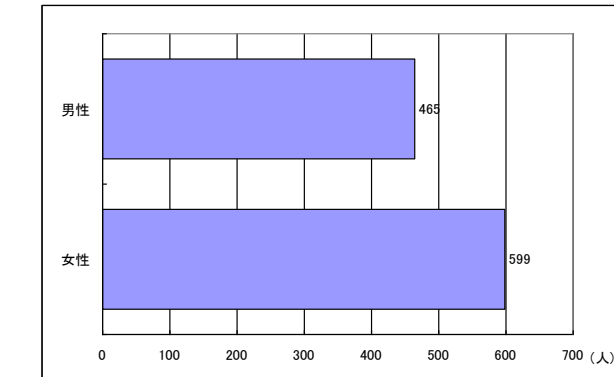
## 《回答者属性》

- 回答者の属性として、居住地は中央区、美浜区在住が多く、職業は主婦、会社員が多い。
- 年齢層はばらつきがあり、30代が 378 人と最も多く、次いで 40代が 265 人と多い。

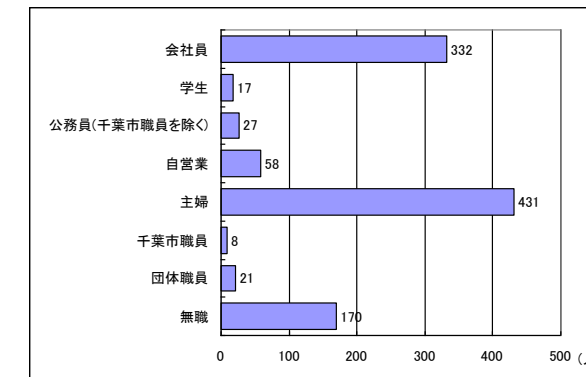
## 【居住地】



## 【性別】



## 【職業】



## 【年齢】

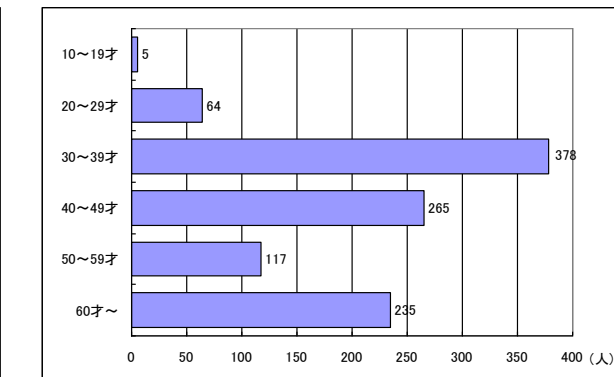


図 1 回答者の属性

表 2 アンケート項目

No.	設問
問 1	千葉市の公共交通についてお聞きします。 公共交通の利便性が高いまちづくりを行うべきだと思いますか。
問 2	利用者が少なく運行継続が困難なバス路線があり、減便や廃止が想定された場合、どのように運行を継続していけばよいと考えますか。
問 3	移動手段として、公共交通を利用する理由についてお答えください。(※複数回答可)
問 4	鉄道を利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。(※複数回答可)
問 5	モノレールを利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。(※複数回答可)
問 6	バスを利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。(※複数回答可)
問 7	あなたは、自動車を運転しますか。

## 2. アンケート結果

問1：千葉市の公共交通についてお聞きします。公共交通の利便性が高いまちづくりを行うべきだと思いますか。（回答数 n=1064）

- 回答者の9割以上が公共交通の利便性の高いまちづくりの必要性について肯定的である。
- 60代の回答者は、公共交通の利便性の高いまちづくりが必要と回答している割合がやや高い。

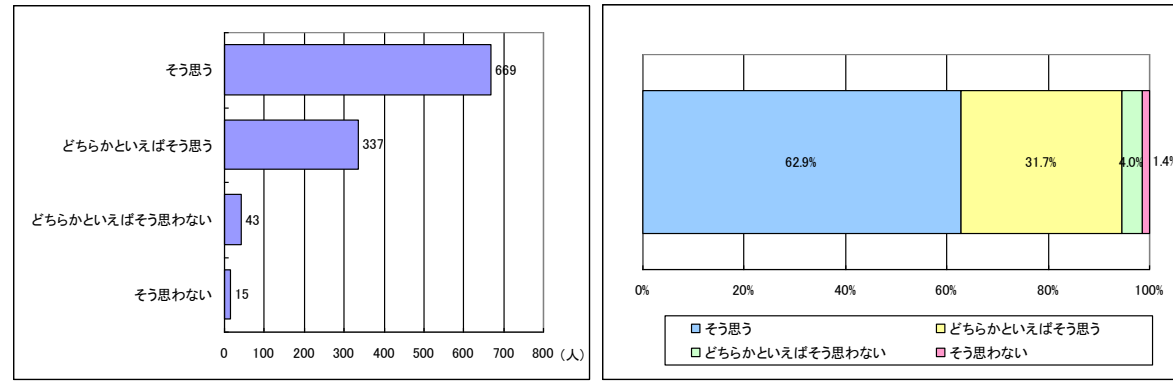


図2 公共交通の利便性の高いまちづくりの必要性

問2：利用者が少なく運行継続が困難なバス路線があり、減便や廃止が想定された場合、どのように運行を継続していけばよいと考えますか。（回答数 n=1064）

- 利用者、沿線住民の負担と補助金を合わせて維持すべきという意見が53.1%と最も多い。
- 20代の回答者は、他と比較して「補助金で負担して維持」という意見の割合が高い。

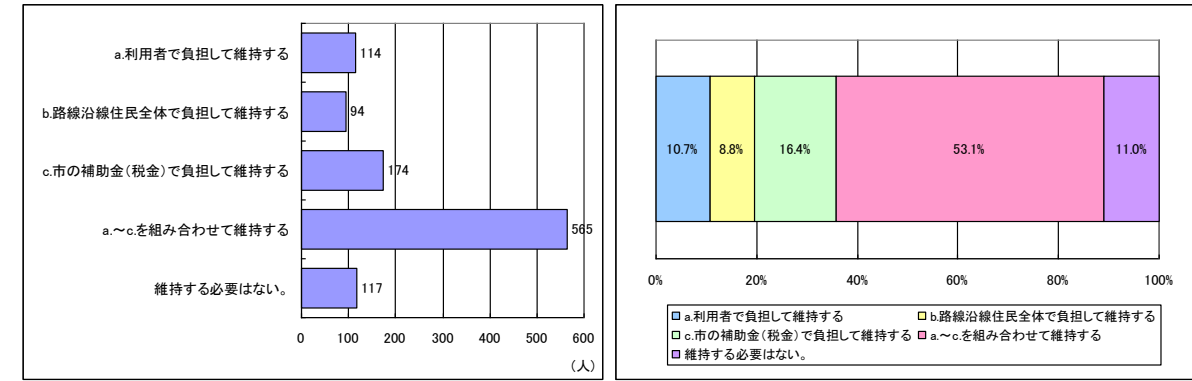
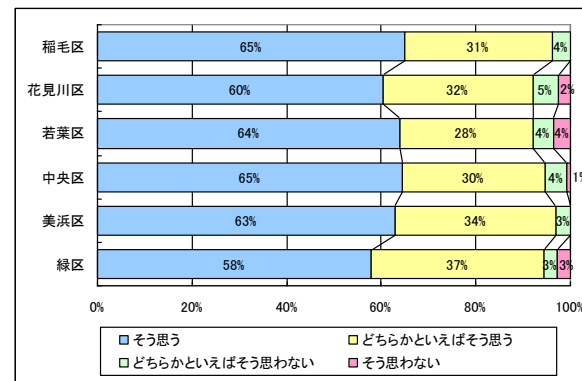


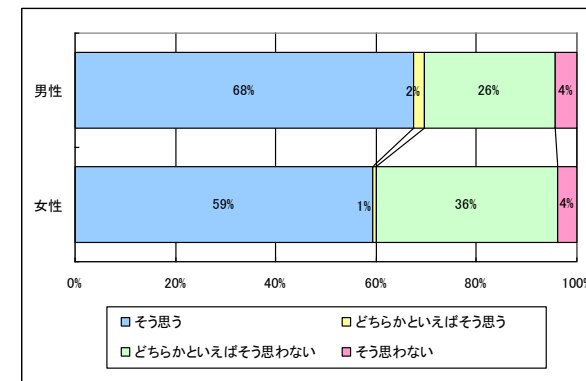
図4 運行継続が困難なバス路線の継続方法

### 《属性ごとの分析》

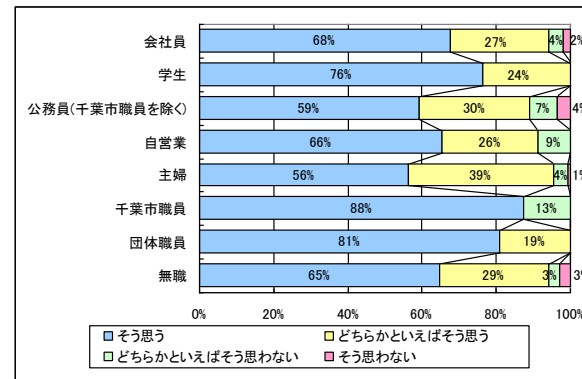
#### 【居住地】



#### 【性別】



#### 【職業】



#### 【年齢】

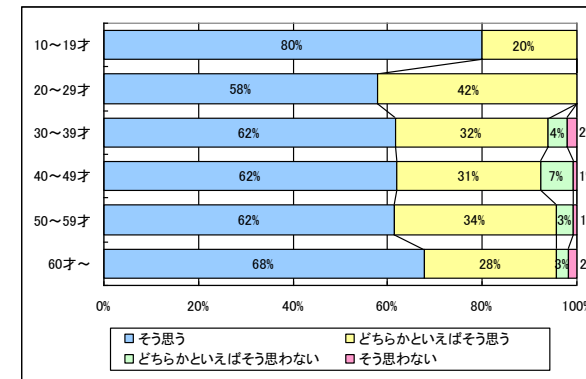
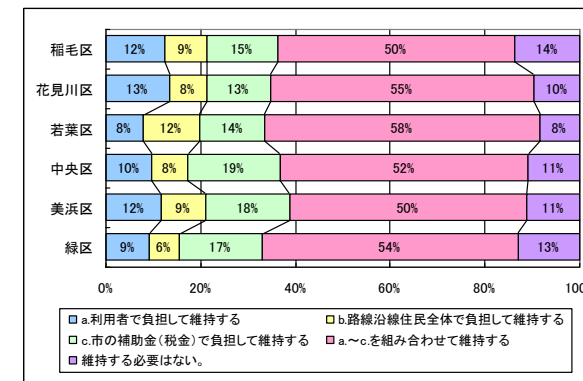


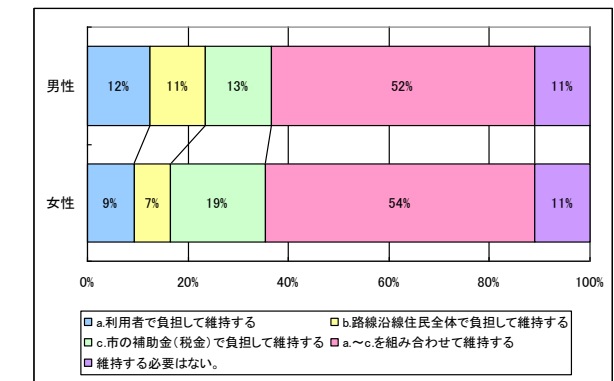
図3 属性ごとの公共交通の利便性の高いまちづくりの必要性の比較

### 《属性ごとの分析》

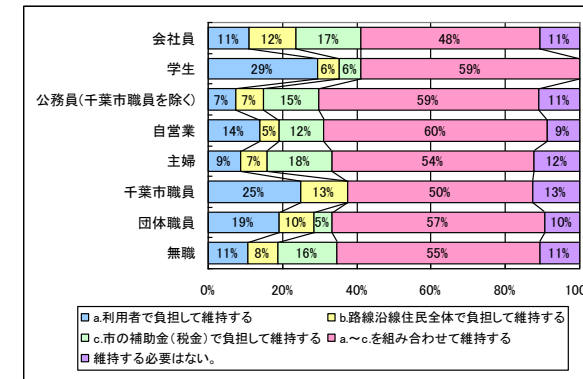
#### 【居住地】



#### 【性別】



#### 【職業】



#### 【年齢】

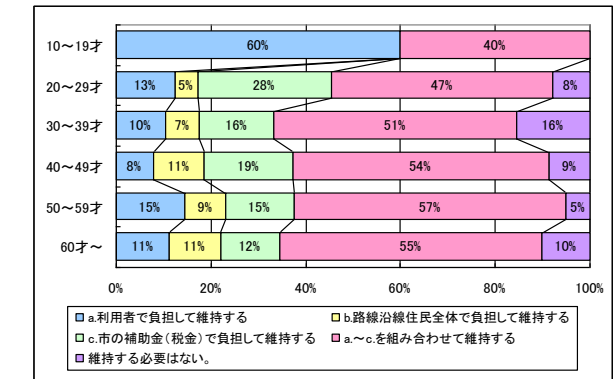


図5 属性ごとの運行継続が困難なバス路線の継続方法の比較

問3：移動手段として、公共交通を利用する理由についてお答えください。（※複数回答可、回答数 n=2504）

- 「駐車場の心配がない」という意見が29.8%と最も多い。
- 約10%が、「他に移動手段がない」と回答している。
- 主婦は、「駐車場の心配がない」という回答が他と比べてやや高い。

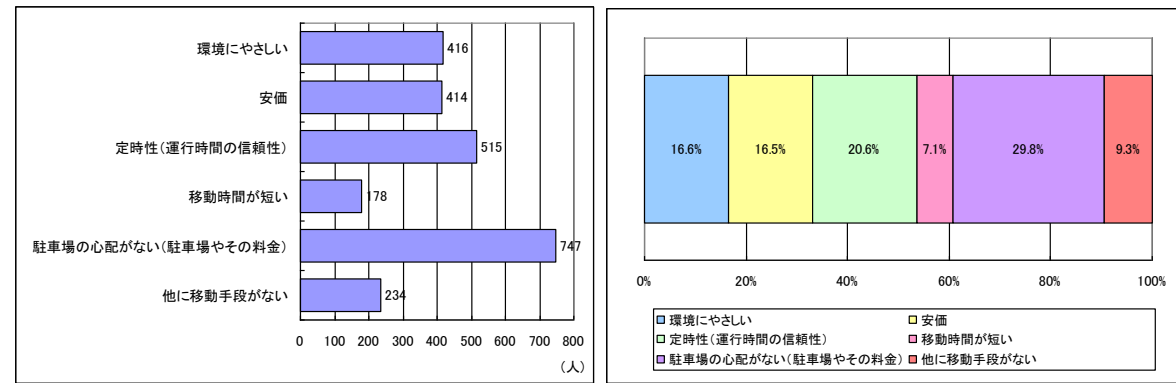


図6 公共交通を利用する理由

問4：鉄道を利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。（※複数回答可、回答数 n=3580）

- 最寄駅から15分以上離れると「不便」と回答する割合が高くなるが、約19%が、徒歩圏であれば不便ではないと回答している。
- 60代は、「乗継の利便性、運行本数及び運賃の高さ」よりも、「最寄駅まで時間がかかる」、徒歩圏内に駅がない」ことに不便と感じる傾向にある。

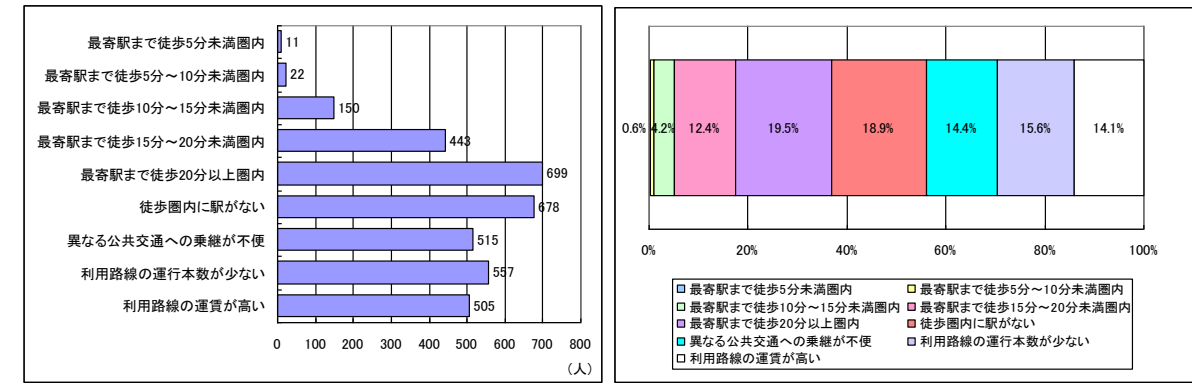
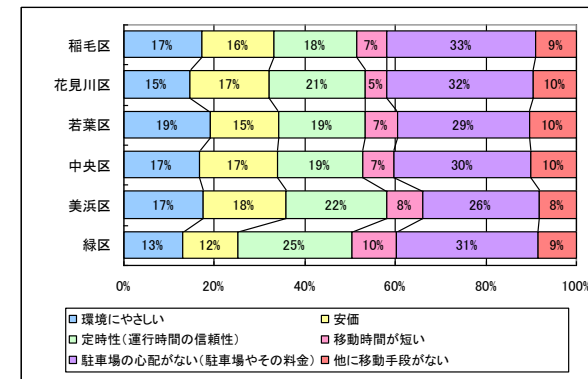


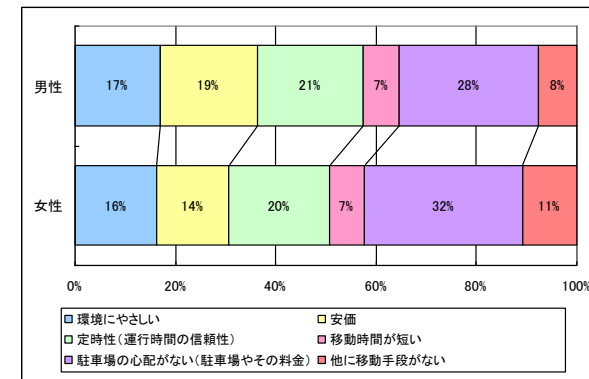
図8 鉄道の利用が不便なエリア

≪属性ごとの分析≫

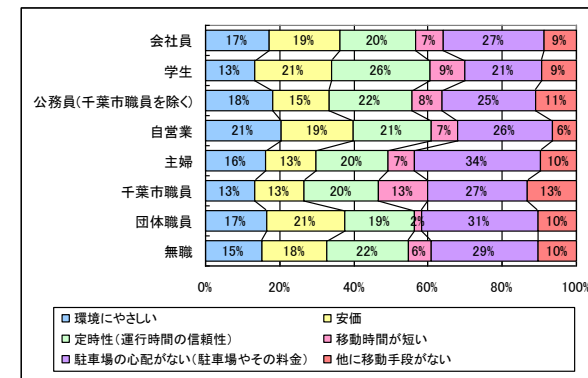
【居住地】



【性別】



【職業】



【年齢】

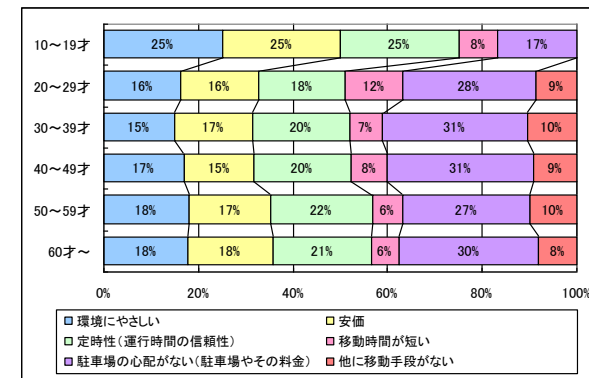
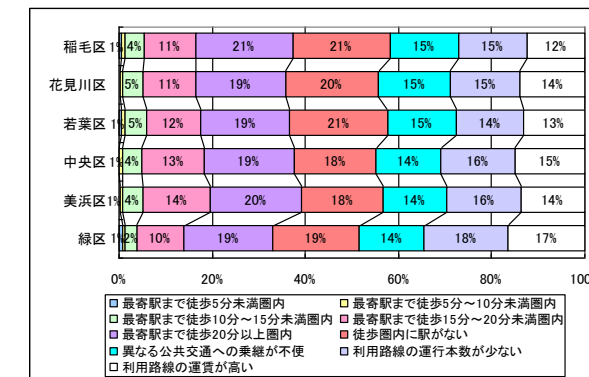


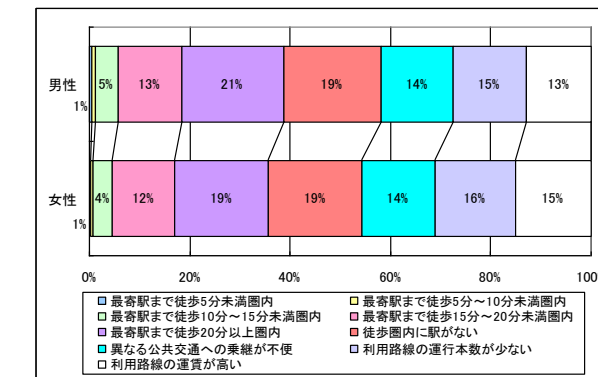
図7 属性ごとの公共交通を利用する理由の比較

≪属性ごとの分析≫

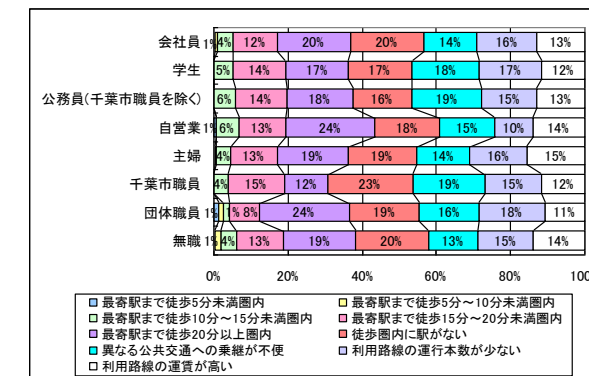
【居住地】



【性別】



【職業】



【年齢】

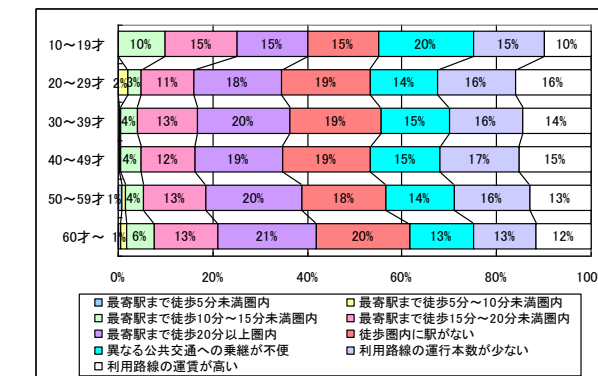


図9 属性ごとの鉄道の利用が不便なエリアの比較

問5：モノレールを利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。(※複数回答可、回答数 n=3297)

- 最寄駅から15分以上離れると「不便」と回答する割合が高くなるが、約20%が、徒歩圏であれば不便ではないと回答している。
- 鉄道やバスに比べ「運賃が高い」という意見が多い。
- 60代は、「乗継の利便性、運行本数」よりも、「最寄駅まで時間がかかる」、「徒歩圏内に駅がない」ことに不便と感じる傾向にある。

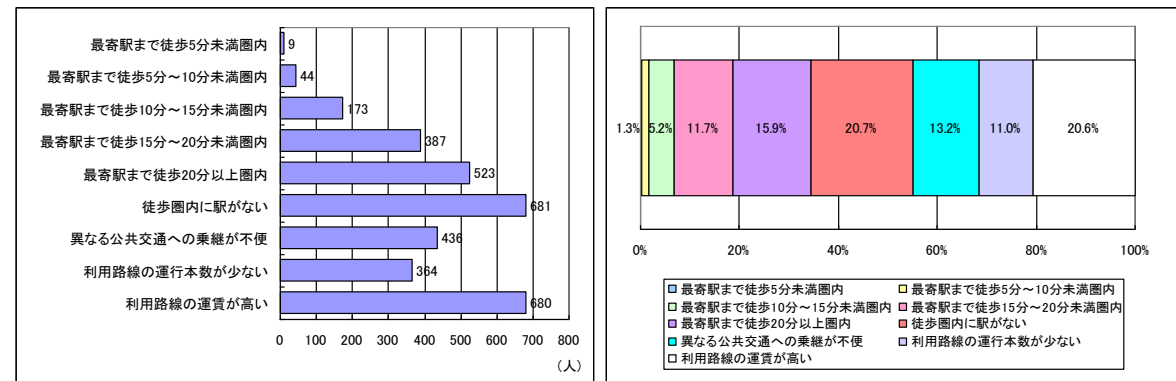


図10 モノレールの利用が不便なエリア

問6：バスを利用する上で不便だと思うエリアをお選びください。(※複数回答可、回答数 n=3940)

- 最寄駅から10分以上離れると「不便」と回答する割合が高くなるが、約15%が、徒歩圏にバス停があれば不便ではないと回答している。
- 鉄道やモノレールと比べ「運行本数が少ない」という意見が多い。

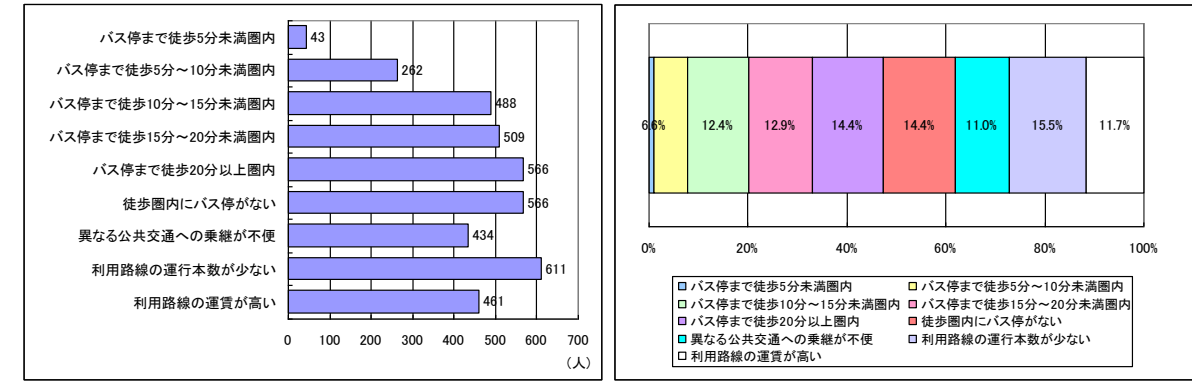
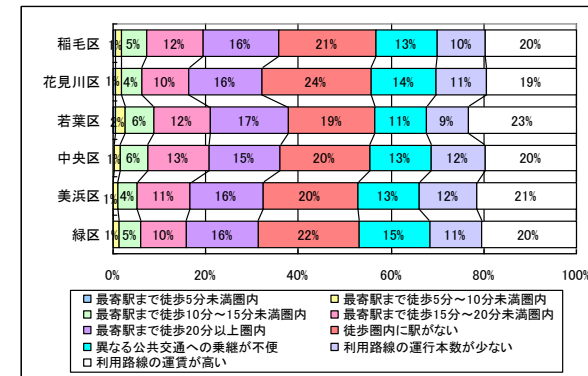


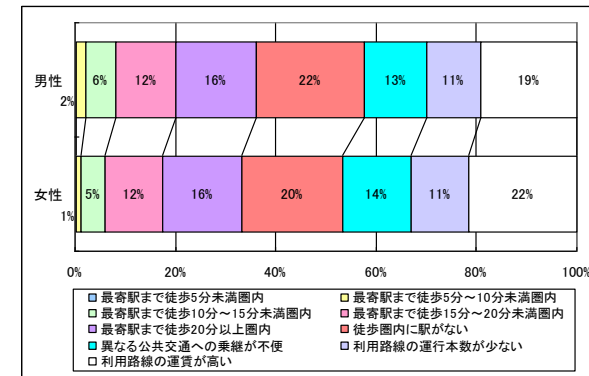
図12 バスの利用が不便なエリア

《属性ごとの分析》

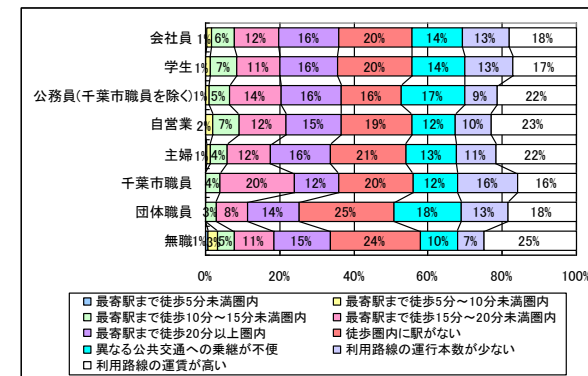
【居住地】



【性別】



【職業】



【年齢】

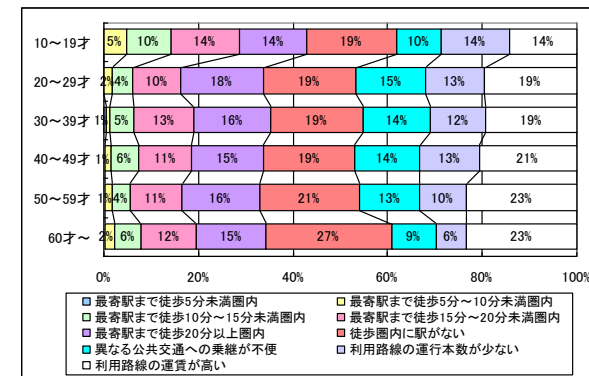
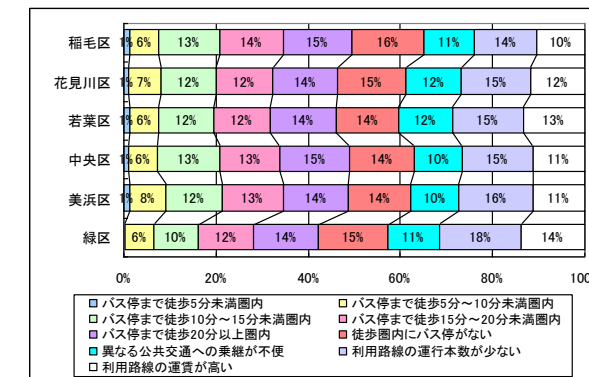


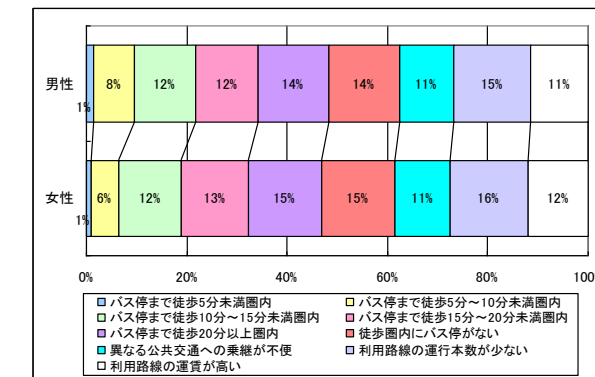
図11 属性ごとのモノレールの利用が不便なエリアの比較

《属性ごとの分析》

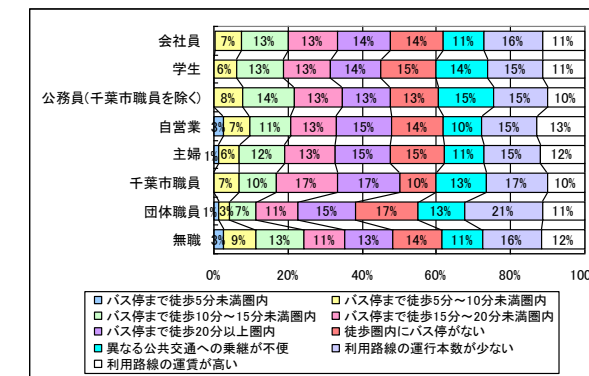
【居住地】



【性別】



【職業】



【年齢】

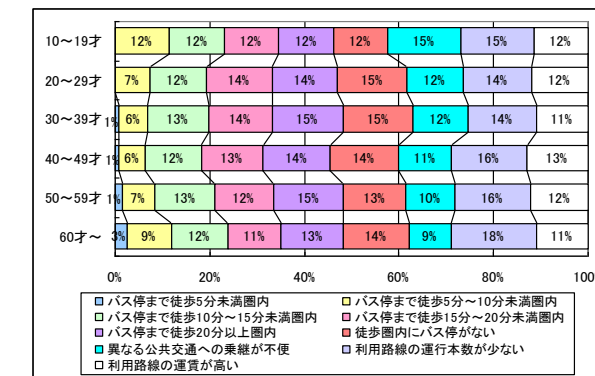


図13 属性ごとのバスの利用が不便なエリアの比較

問7：あなたは、自動車を運転しますか。（回答数 n=1064）

- 回答者の7割以上が運転をすると回答している。
- 属性ごとに比較すると、公共交通を利用する理由として、運転者は「駐車場の心配がない」という回答の割合が高く、非運転者は「他に移動手段がない」という回答の割合が高くなっている。

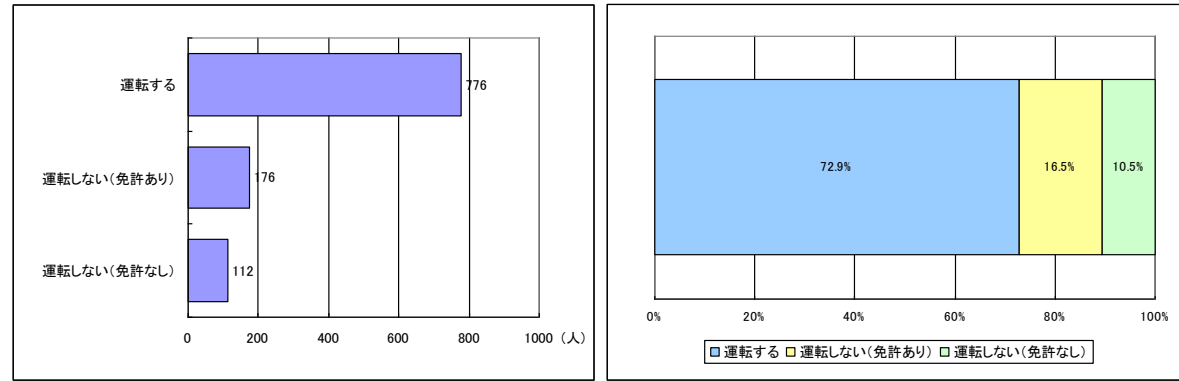
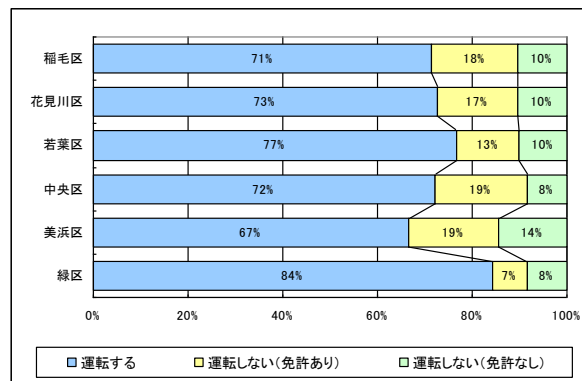


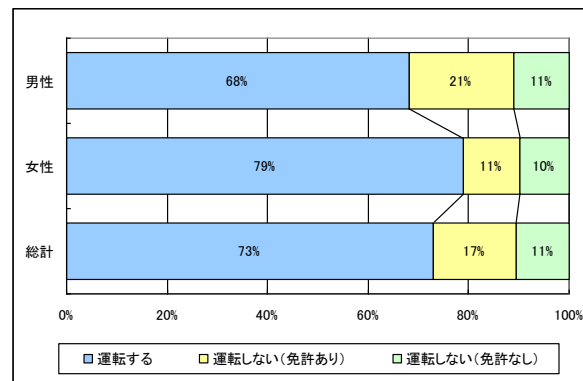
図 14 回答者の運転経験

《属性ごとの分析》

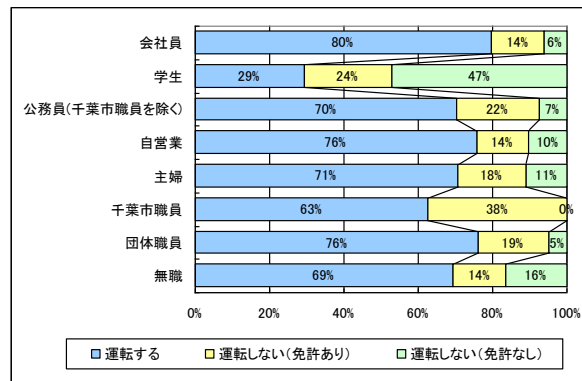
【居住地】



【性別】



【職業】



【年齢】

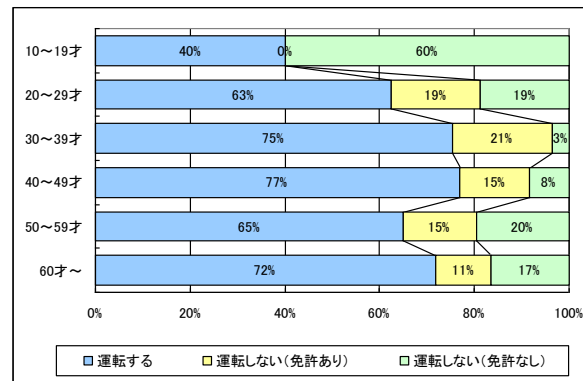
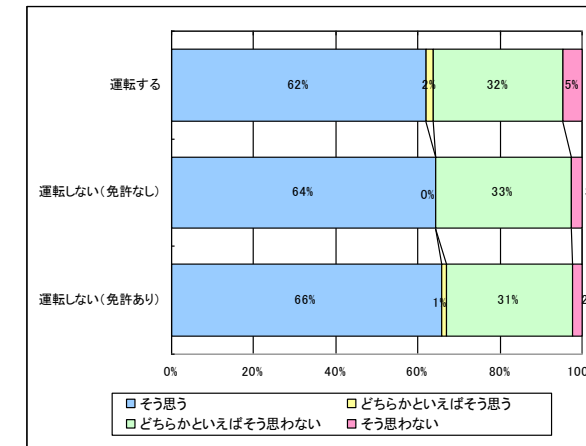


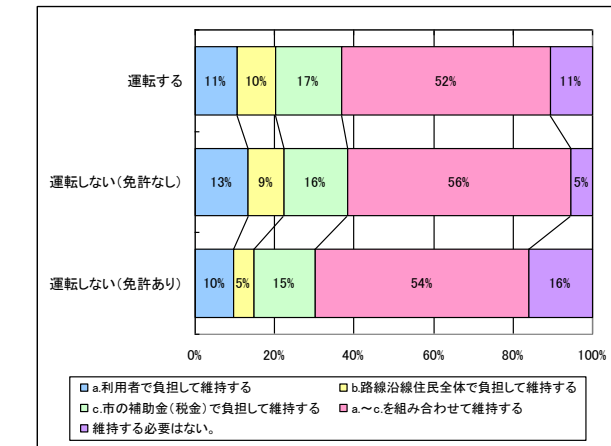
図 15 属性ごとの運転経験の比較

《問1～問6との分析》

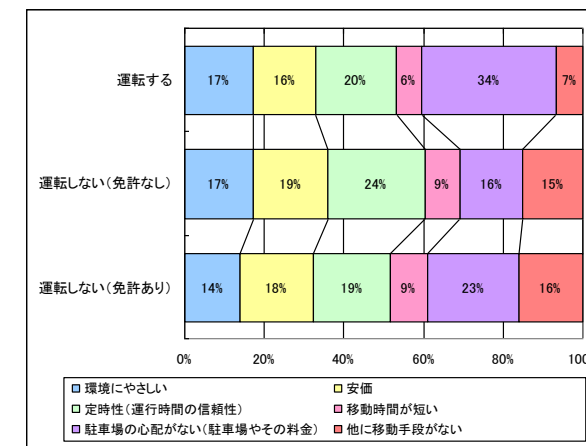
【問1 公共交通の利便性の高いまちづくりの必要性】



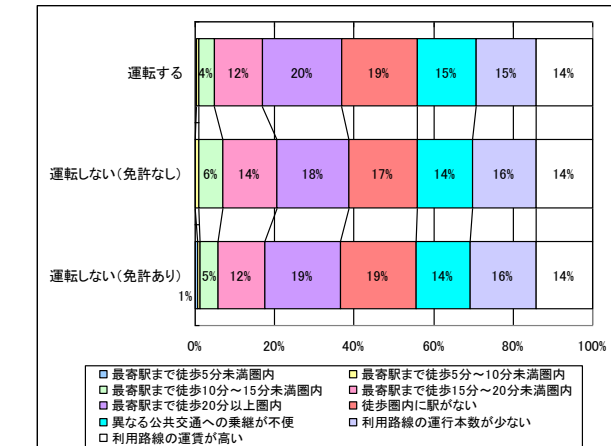
【問2 運行継続が困難なバス路線の継続方法】



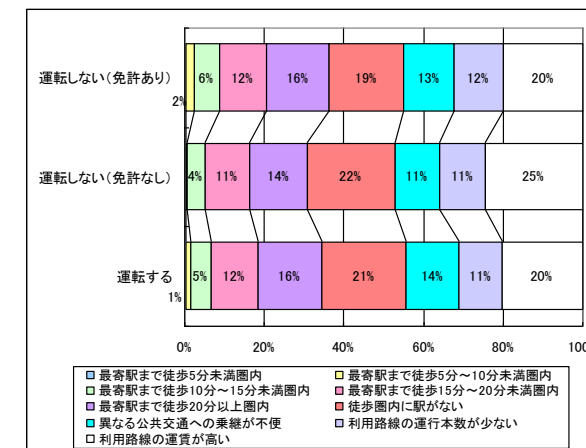
【問3 公共交通を利用する理由】



【問4 鉄道の利用が不便なエリア】



【問5 モノレールの利用が不便なエリア】



【問6 バスの利用が不便なエリア】

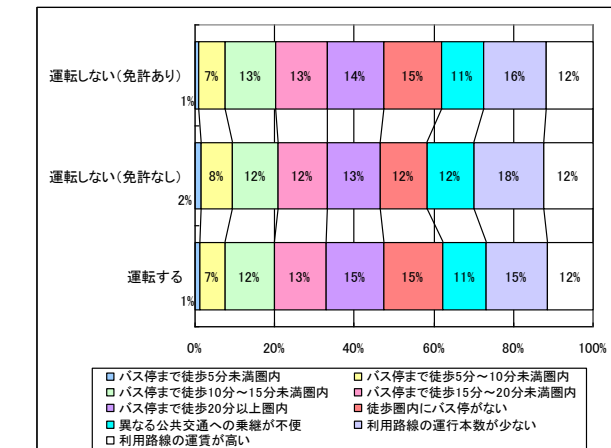


図 16 運転経験による各設問の回答の比較